「画家・牧野克次の家族史」「牧野家の歴史」は、下記ホームページに掲載しています。

宮嶋サロン　ホームページ　katsu85.sakura.ne.jp

① 「宮嶋八蔵の日本映画四方山話」を入力する。

② 口述筆記内容は左側にタイトル項目がありますので、関心のあるタイトルをクリックして下さい。

③ 「画家・牧野克次の家族史」は、左側のタイトルの下の方をご覧下さい。
「宮嶋八蔵の妻の家系」というタイトルをクリックすると見ていただけます。
又、画家・牧野克次の妻、兄弟については、「牧野家の歴史」をクリックすると見ていただけます。

2018（H30）年 8月15日（水）

毎日新聞 朝刊 2

20日（月） 34 25 ㉚　21日（火） 33 25 ㉚
20日（月） 34 23 ㉚　21日（火） 33 23 ㉚
のち　一時・時々　5ミリ未満　5ミリ以上
数字（上）最高気温（下）最低気温
丸囲みは降水確率
白ヌキは50%以上
↘は正午の風向き
矢印なしは無風
こよみは下に掲載

京都御所、御本山、茶道
嵯峨 藤本
〒616-8422 京都市右京区嵯
TEL(075)861-0174 FAX
http://tatami

明治期・関西洋画壇発展に貢献―

牧野克次の遺品寄贈

京都工繊大に

明治期に関西の洋画壇の発展に貢献した洋画家で、京都高等工芸学校（現京都工芸繊維大）の助教授を務めた牧野克次（1864～1942年）の遺品が京都市上京区の子孫宅で見つかり、京都工芸繊維大の美術工芸資料館に寄贈された。牧野は明治末期に米国で建築の室内意匠も手がけており、そうした設計図や写真、滞在中の日記などが含まれる。資料館は「当時は特別だった渡米の背景や、米国での足跡が見えてくると面白い」と遺品の調査を進める。【南陽子】

牧野克次

見つかった自筆の履歴書などによると、牧野は現在の大阪府藤井寺市の生まれ。小学校教員をしながら日本画と洋画を学び、上京して洋画家、小山正太郎の画塾に入門。高等の教員試験に合格し、静岡と大阪の学校勤務を経て1902（明治35）年、設立された京都高等工芸学校に転任し、図案学を教えた。洋画家の浅井忠がフランス留学を終えて同校の教授に着任すると、浅井を初代院長とする洋画研究の民間拠点「関西美術院」（京都市）の発起人に加わった。

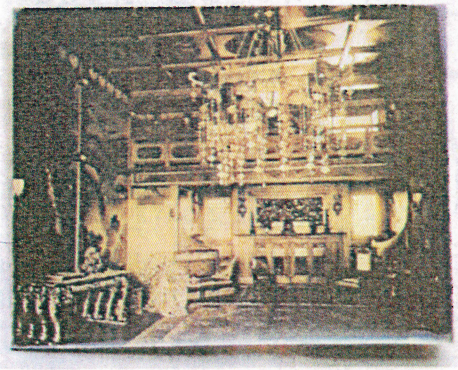
牧野は洋画の基本技術とされた写生に優れ、03（同36）年の油彩の風景画「落葉」は京都市美術館に所蔵されている。

だが、06（同39）年に休職して渡米。ニューヨークの美術学校の水彩画教授となる一方、世界的化学者の高峰譲吉がニューヨーク州に構えた別邸「松楓殿」や、マンハッタンの本邸の室内意匠を手がけた。両邸とも社交場として「日本式」が目指され、華麗な障壁画などで彩った。

18（大正7）年に帰国。42（昭和17）年に東京で亡くなるまでの足跡は明らかではなかったが、遺品には久邇宮邸の設計図もあり、晩年は皇族に仕えるなど多彩な人生だったことがうかがえる。

美術工芸資料館は2012年、京都高等工芸学校と高峰邸との関わりについて展覧会を開いたが、並木誠士館長は「（牧野が）なぜ日本文化を発信する役割を担ったのか、背景がよく分からなかった。学校の初期の教育体制の中でどんな位置を占めていたのかをはじめ、明らかになれば」と話す。

今回の遺品は、牧野の孫の夫で、映画監督の故・溝口健二のもとで助監督を務めた宮嶋八蔵さん＝2015年に88歳で死去＝方にあった。八蔵さんの教え子の竹田美寿恵さん（66）＝大阪市＝が、台本や時代考証資料などを早稲田大に寄贈するため整理を進める中で発見。牧野の長男で京都高等工芸学校を卒業し宮内省の技師となった牧野純一さん（1895～1960）の遺品と合わせ、約1000点が引き渡された。寄贈者で八蔵さんの長男の宮嶋晃さん（66）＝川崎市＝は「絵描きに収まらず、日米を行き来して激動の時代を生きた人間像を知りたい」と話した。



㊤京都工芸繊維大美術工芸資料館の並木誠士館長（左端）に寄贈品の目録などを手渡す宮嶋晃さん（中央）と竹田美寿恵さん＝京都市左京区の同館で㊦牧野克次が室内意匠を引き受けた「松楓殿」内部の写真＝京都市上京区で